

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

11/10

所属部局・職	霊長類研究所、PWS 履修生 1 年
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県、屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
H26, 10/19 ~ H26, 10/24 (6 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
屋久島実習は、野生動物を対象としたフィールド研究の基礎的な視点を養うこと、国際的なメンバーでのチーム研究に取り組むことで、英語によるコミュニケーション力の上達を目的として行われた。 調査はモンキーチームとオオイタビチームの、2つ分かれて行われ、私はモンキーチームに所属した。今回のレポートでは、モンキーチームの調査について紹介する。モンキーチームのテーマは、屋久島のニホンザルが、どういった果実を食しているか？また、それらの種子をどのように扱っているか？である。 これらを調査するため、10月21日と22日にアドリブ観察によって、ニホンザルの果実食行動における、植物の種名とその種子の扱い方を(噛み砕き型、吐きだし型、飲み込み型)、採食行動の始まりから終わりまでを1セッションとして記録した。観察と並行して、ニホンザルの糞サンプルを持ち帰り、洗浄することで、糞に含まれる植物種を特定した。 この期間における観察結果から、マテバシイの実の採食が最も多くみられ、それらは噛み砕きによって採食されたこと。クスノキの果実の多くは、吐きだし型によるもので、少ない例ではあるが、シマサルナシ、オオイタビの種子は飲み込まれていることが確認できた。また、糞サンプルからの結果では、集めた28サンプルすべてで、イチジク属の種子が見つかり、半分以上のサンプルで、シマサルナシ、クスノキの果実の皮、そしてマテバシイ堅果の殻が見つかった。 結果から、この期間において、マテバシイが最も豊富で、採食が容易であることがうかがえる。そして、ニホンザルの果実食において、シマサルナシ・イチジク科のある種は、飲み込み型の採食により、種子散布されているようである。また、クスノキの種子は、掃

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

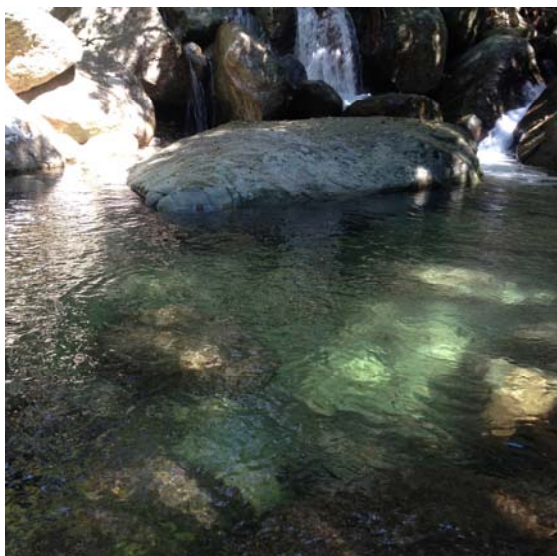
き出し型の採食によって、種子散布されていると考えられる。マテバシイの種子が噛み砕きによって破壊されてしまうのは、固い殻の中にある、種子と子葉がニホンザルの採食の目的であるためであり、ニホンザルはマテバシイにおける種子散布者とは言えないだろう。

今回の調査の反省点は、チームのコミュニケーション不足による、観察法の不一致である。調査を行う前に、観察方法や採食法の基準等を必ず話し合い、共通の決定を下すことの重要性がよくわかった。

この実習において、霊長類研究所の湯本先生、半谷先生、澤田さんに適切かつ熱心な指導をしていただきました。心より感謝申し上げます。また、共に実習を行った有賀さん、佐藤さん、Liesbethさん、Cecileさん、横塚さん、Basaboseさん、大変ありがとうございました。



日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書



(Liesbeth 撮影)

6. その他 (特記事項など)

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書